

2013/3/5

柏の景気情報（平成25年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年2月分）

○ 調査期間 : 平成25年2月20日 ~ 2月25日

○ 調査対象 : 柏市内161事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	161	96	59.6%
建設	45	29	64.4%
製造	35	18	51.4%
卸・小売	44	34	77.3%
サービス	37	15	40.5%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年2月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは横ばいが続く 円安の影響により原材料高騰が懸念材料 ▶

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.9(前月水準▲22.4)となり、マイナス幅が▲0.5ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業13.3(同▲5.5)である。変らない業種は、製造業▲27.7(同▲27.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲17.2(同▲10.3)、卸小売業▲41.1(同▲39.3)である。

【建設業】からは、「補正予算が現実に仕事に結びつく時期はいつなのかが関心事項です」(土木工事業)、「燃料費の高騰で県外市外の仕事だとその分の金額は貰っていないので厳しい」(造園工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「原油高と円安で原材料が上昇傾向にある」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「材料の値上がりが続いています。年度末までの仕事が終わりに3ヵ月は仕事量が少なめな感じがある」(建築用・建設用金属製品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「仕入価格が少しずつ上昇傾向になってきています。売価は上げられずどこの店も価格競争になっている」(その他の各種商品小売業)、「2月は端境期で元々数字は小さいが、冷え込みが激しく下旬に入っても春物も例年より出が悪い。冬物の需要はそこそこあるが売れ筋商品は少なく苦戦している」(婦人・子供服小売業)、「2月度、厳しい寒さが続きセール商材の消化に繋がった。6日には大雪予報の影響を受け、売上高は大きく落ち込みをみせたものの、セールを17日まで開催したことや、バレンタイン商戦でマフラーや季節商品のギフトが動いたことから大きく盛り返した。セール終了後はプロパー商材の動きが活発化し、特に服飾雑貨で高単価商材が好調に動き全体を牽引した」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「2~3月の個人旅行は国内が伊豆箱根関西北海道沖縄が人気。海外はハワイヨーロッパアジアが根強い。国内海外とも4月くらいまでは昨年並みの受注。法人需要も動いている。心配なのは中小企業円滑化法終了の影響」(旅行業)、「住居は賃貸需要期に入っていますが、通念より若干弱含み感があり。ホットスポットマイナスイメージを払しょくする企画、事業に期待。懸念材料は光熱費の高騰」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎円安の影響

各業種から、「受注工事の見通しはそこそこあるが材料値上がり、施工単価下落の状態での受注は不安である。また一部材料を輸入に頼っている現在、材料メーカーからの円安の影響で再度値上げするような話も出ている」(その他の職別工事業)、「原材料価格が円安に振れているため高騰の可能性が高い。3月に入ると動きがありそう。チャイナリスク回避の影響か定かではないが、一時的ではあると思うが、海外生産品の国内移行が始まっている」(紙製容器製造業)、「円安になり原材料価格が今後上がっていくような気がします。ますます二極化が進む中、価値の創造する能力が中小企業に問われていると感じます」(各種食品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料・燃料高騰

各業種から、「ガソリン高騰の為、商品運搬経費がかさみただでさえ売り上げが落ち込むこの時期に大打撃です」(内装工事業)、「材料の値上がりが続いています。年度末までの仕事が終わりに3ヵ月は仕事量が少なめな感じがある」(建築用・建設用金属製品製造業)、「今シーズンは底知れぬ灯油の値上がりで販売方法に大きな変化が現れた。販売業種の多くは電気に切り替わり、量販店やGSに流れたが閉鎖したGSの一部が取引を開始してくれたりなんとか昨年並みの実績は維持できている」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き期待

各業種から、「機械メーカーは世間から数ヵ月遅れて波が来るので、よい側に市場が動き出す事を期待したい」(その他の機械・同部品製造業)、「2月と言う时期的なことで不動産は活発に動いています。4月以降にも期待したいです」(不動産賃貸業)、「年度末追い込みが進められています。ただ安部総理のおかげで経済活発化を期待し案件の話は飛びまわっています。それに反応して仕入、人件費が上がっている状況」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲ 36.9	▲ 28.0	▲ 23.5	▲ 58.8	▲ 18.7
10月	▲ 32.6	▲ 18.5	▲ 18.1	▲ 51.4	▲ 35.0
11月	▲ 39.6	▲ 20.6	▲ 27.7	▲ 55.8	▲ 50.0
12月	▲ 23.7	▲ 14.2	±0.0	▲ 54.5	▲ 5.8
1月	▲ 22.4	▲ 10.3	▲ 27.7	▲ 39.3	▲ 5.5
2月	▲ 22.9	▲ 17.2	▲ 27.7	▲ 41.1	△ 13.3
見通し	▲ 4.1	△ 13.7	▲ 5.5	▲ 26.4	△ 13.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.9(前月水準▲22.4)となり、マイナス幅が▲0.5ポイント拡大した。

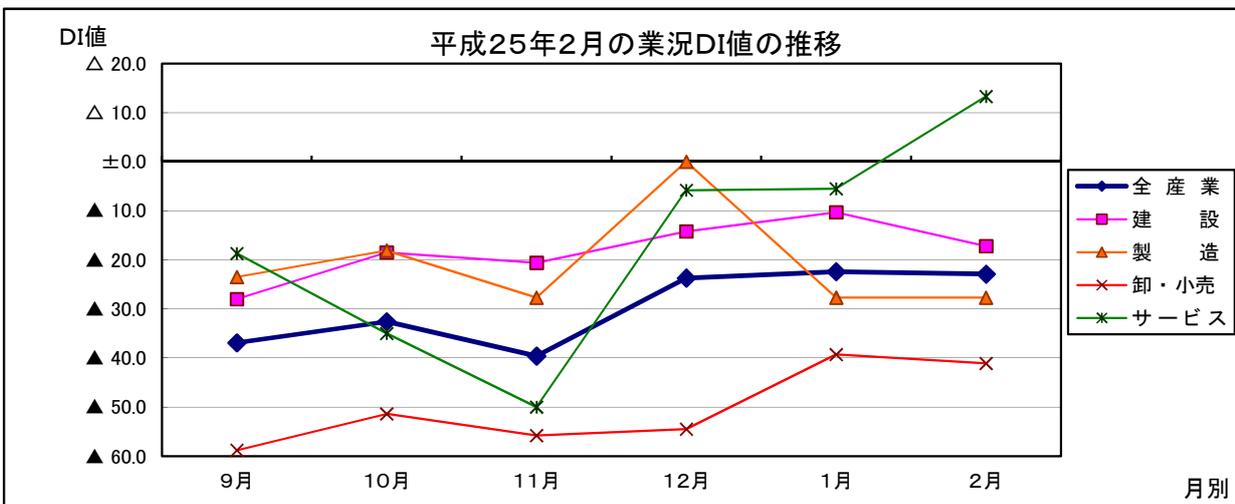
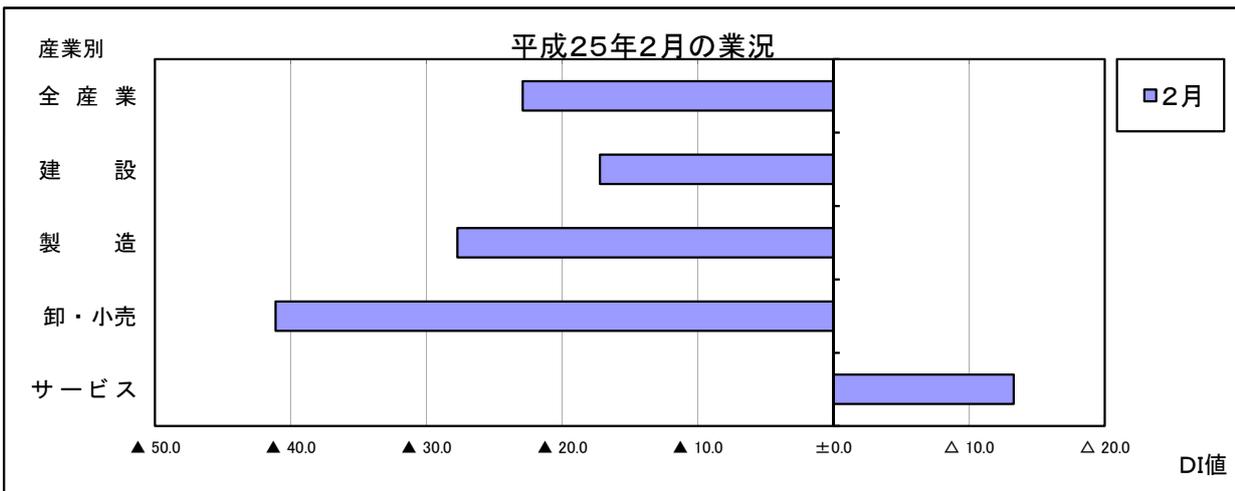
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業13.3(同▲5.5)である。変らない業種は、製造業▲27.7(同▲27.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲17.2(同▲10.3)、卸小売業▲41.1(同▲39.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.1(前月水準▲5.1)となり、マイナス幅が1.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業13.3(同5.5)、建設業13.7(同6.8)である。変らない見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲5.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲26.4(同▲21.2)である。

平成25年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲36.9	▲32.6	▲39.6	▲23.7	▲22.4	▲22.9	▲4.1(▲5.1)
建設	▲28.0	▲18.5	▲20.6	▲14.2	▲10.3	▲17.2	△13.7(△6.8)
製造	▲23.5	▲18.1	▲27.7	±0.0	▲27.7	▲27.7	▲5.5(▲5.5)
卸・小売	▲58.8	▲51.4	▲55.8	▲54.5	▲39.3	▲41.1	▲26.4(▲21.2)
サービス	▲18.7	▲35.0	▲50.0	▲5.8	▲5.5	△13.3	△13.3(△5.5)



【平成25年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.0(前月水準▲25.5)となり、マイナス幅が▲0.5ポイント拡大した。

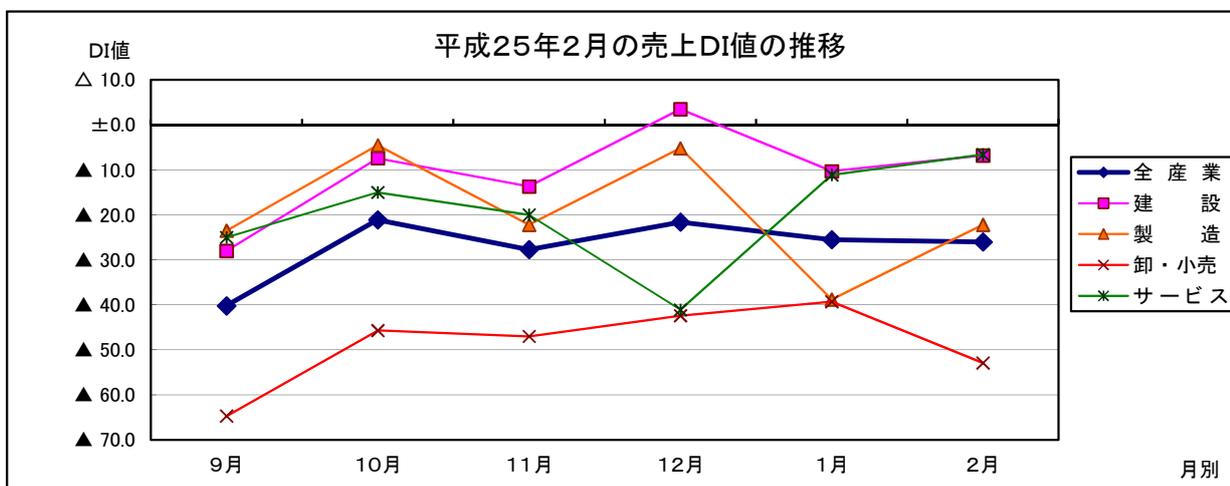
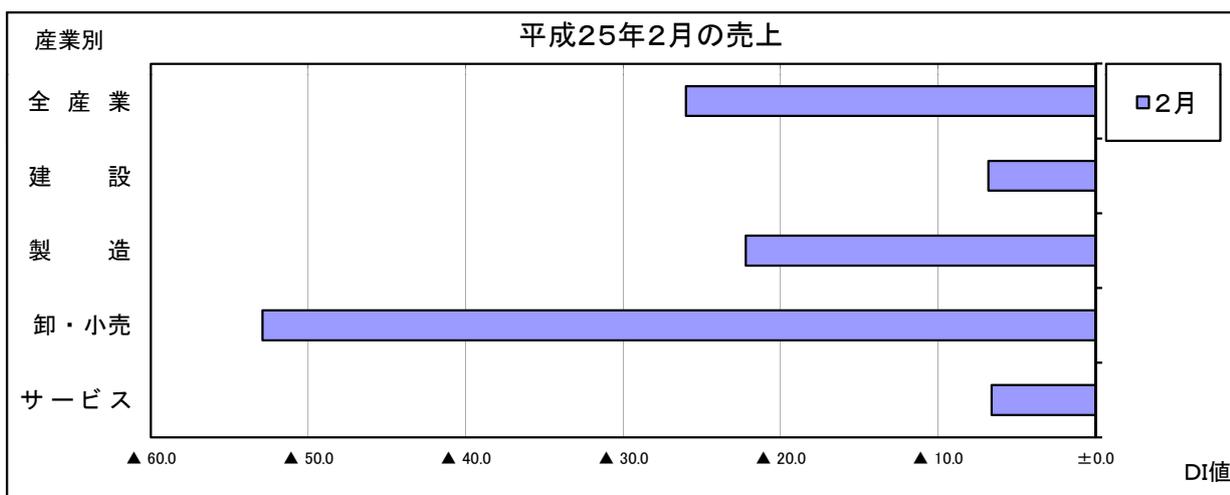
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲38.8)、サービス業▲6.6(同▲11.1)、建設業▲6.8(同▲10.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲52.9(同▲39.3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、12.5(前月水準3.0)となり、プラス幅が9.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業26.6(同5.5)、建設業24.1(同6.8)である。特に、サービス業はプラス幅が21.1ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲2.9(同▲9.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業11.1(同16.6)である。

平成25年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲40.2	▲21.1	▲27.7	▲21.6	▲25.5	▲26.0	△12.5(△3.0)
建設	▲28.0	▲7.4	▲13.7	△3.5	▲10.3	▲6.8	△24.1(△6.8)
製造	▲23.5	▲4.5	▲22.2	▲5.2	▲38.8	▲22.2	△11.1(△16.6)
卸・小売	▲64.7	▲45.7	▲47.0	▲42.4	▲39.3	▲52.9	▲2.9(▲9.0)
サービス	▲25.0	▲15.0	▲20.0	▲41.1	▲11.1	▲6.6	△26.6(△5.5)



【平成25年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30. 2(前月水準▲36. 7)となり、マイナス幅が6. 5ポイント縮小した。

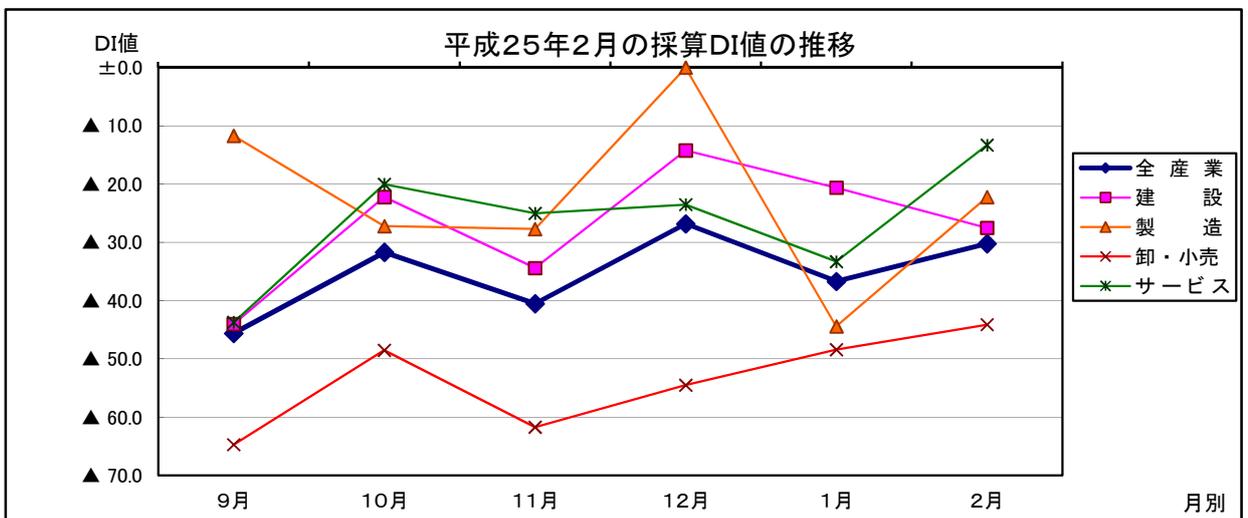
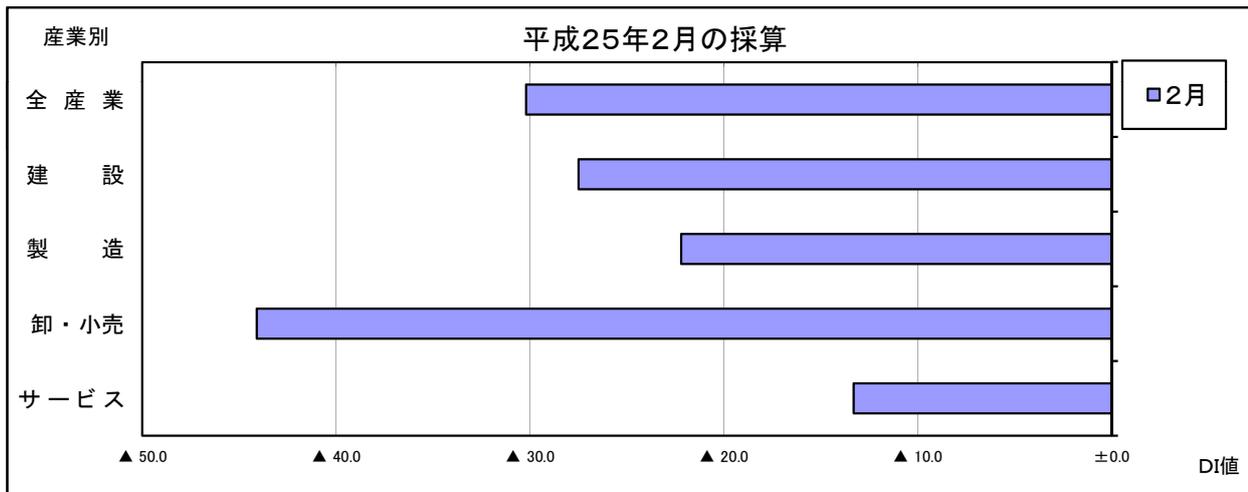
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22. 2(同▲44. 4)、サービス業▲13. 3(同▲33. 3)、卸小売業▲44. 1(同▲48. 4)である。特に、製造業はマイナス幅が22. 2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲27. 5(同▲20. 6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4. 1(前月水準▲6. 1)となり、マイナス幅が2. 0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業13. 3(同5. 5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲6. 8(同▲10. 3)、卸小売業▲11. 7(同▲15. 1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業±0. 0(同▲5. 5)である。

平成25年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲45.6	▲31.7	▲40.5	▲26.8	▲36.7	▲30.2	▲4.1(▲6.1)
建設	▲44.0	▲22.2	▲34.4	▲14.2	▲20.6	▲27.5	▲6.8(▲10.3)
製造	▲11.7	▲27.2	▲27.7	±0.0	▲44.4	▲22.2	±0.0(△5.5)
卸・小売	▲64.7	▲48.5	▲61.7	▲54.5	▲48.4	▲44.1	▲11.7(▲15.1)
サービス	▲43.7	▲20.0	▲25.0	▲23.5	▲33.3	▲13.3	△13.3(△5.5)



【平成25年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.1(前月水準▲31.6)となり、マイナス幅が2.5ポイント縮小した。

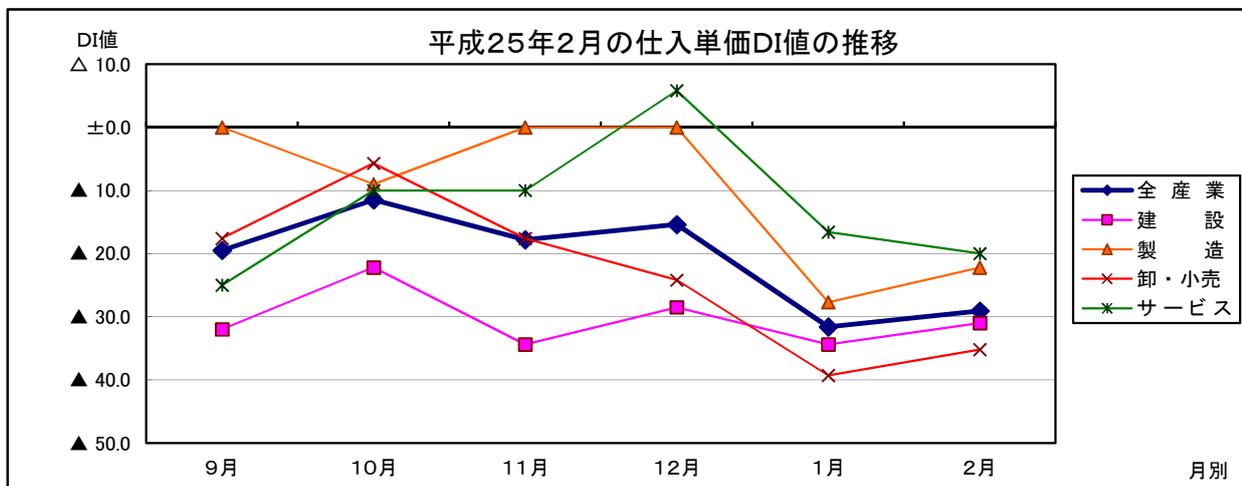
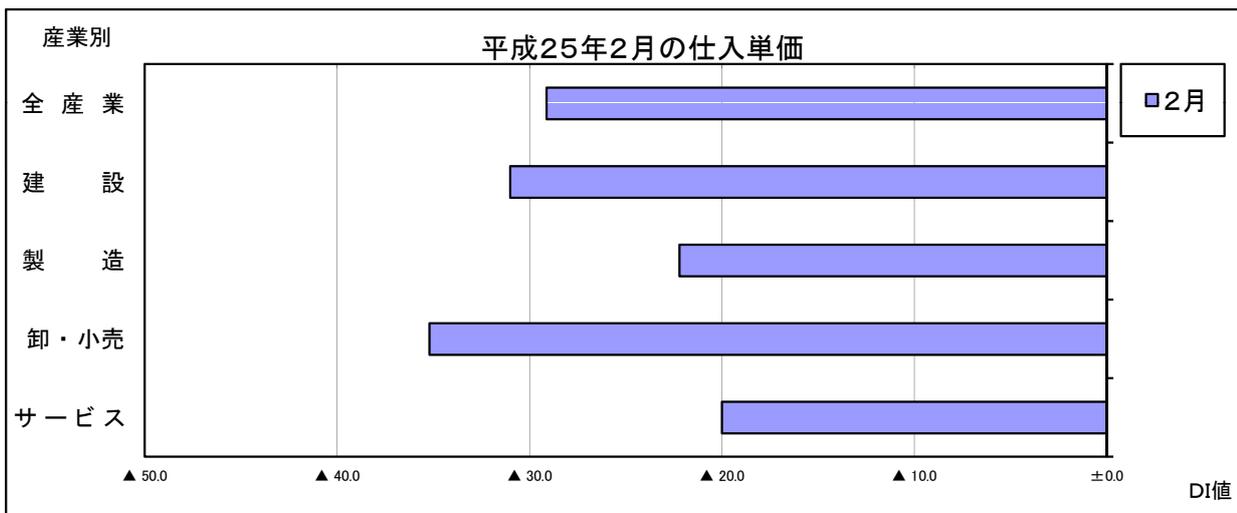
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲27.7)、卸小売業▲35.2(同▲39.3)、建設業▲31.0(同▲34.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲20.0(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.2(前月水準▲25.5)となり、マイナス幅が▲5.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲22.2)、卸小売業▲32.3(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲44.8(同▲27.5)、製造業▲16.6(同▲11.1)である。

平成25年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲19.5	▲11.5	▲17.8	▲15.4	▲31.6	▲29.1	▲31.2(▲25.5)
建設	▲32.0	▲22.2	▲34.4	▲28.5	▲34.4	▲31.0	▲44.8(▲27.5)
製造	±0.0	▲9.0	±0.0	±0.0	▲27.7	▲22.2	▲16.6(▲11.1)
卸・小売	▲17.6	▲5.7	▲17.6	▲24.2	▲39.3	▲35.2	▲32.3(▲33.3)
サービス	▲25.0	▲10.0	▲10.0	△5.8	▲16.6	▲20.0	▲20.0(▲22.2)



【平成25年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、3.1(前月水準±0.0)となり、プラス幅が3.1ポイント拡大した。

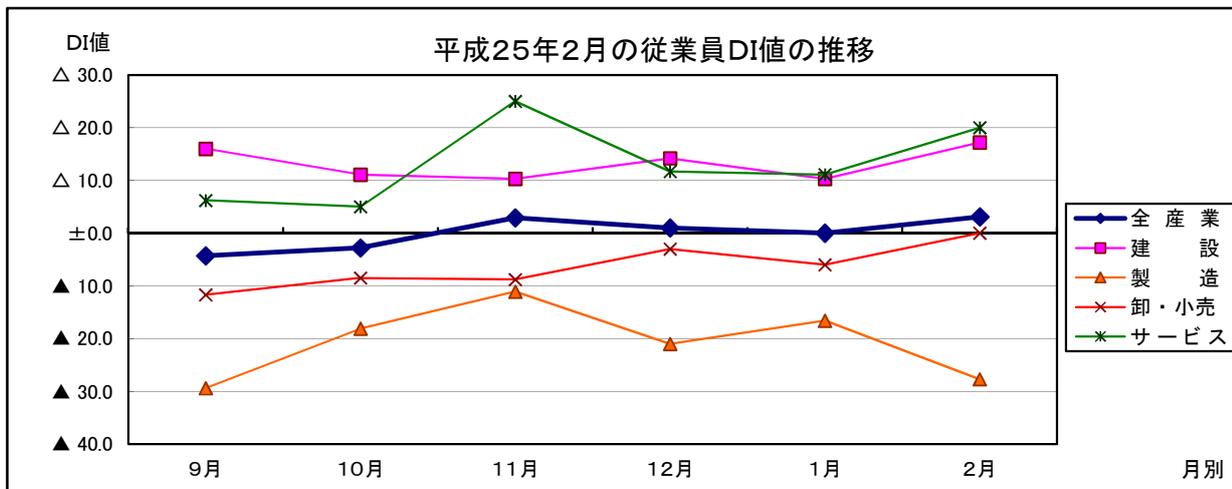
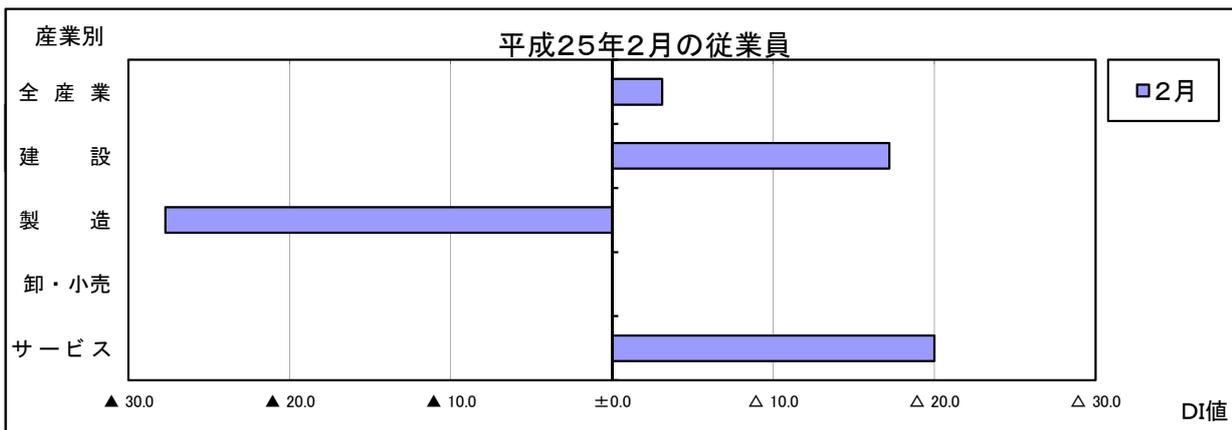
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業20.0(同11.1)、建設業17.2(同10.3)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業±0.0(同▲6.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.7(同▲16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、9.3(前月水準8.1)となり、プラス幅が1.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業24.1(同17.2)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、卸小売業5.8(同▲3.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業26.6(同27.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲22.2(同▲5.5)である。

平成25年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲4.3	▲2.8	△2.9	△1.0	±0.0	△3.1	△9.3(△8.1)
建設	△16.0	△11.1	△10.3	△14.2	△10.3	△17.2	△24.1(△17.2)
製造	▲29.4	▲18.1	▲11.1	▲21.0	▲16.6	▲27.7	▲22.2(▲5.5)
卸・小売	▲11.7	▲8.5	▲8.8	▲3.0	▲6.0	±0.0	△5.8(▲3.0)
サービス	△6.2	△5.0	△25.0	△11.7	△11.1	△20.0	△26.6(△27.7)



【平成25年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13. 5(前月水準▲12. 2)となり、マイナス幅が▲1. 3ポイント拡大した。

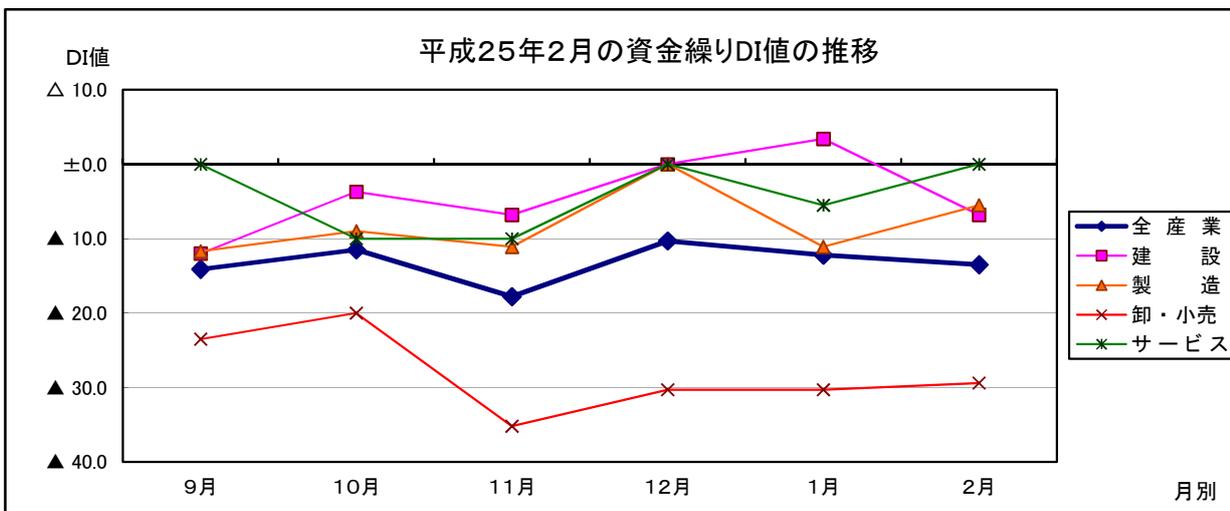
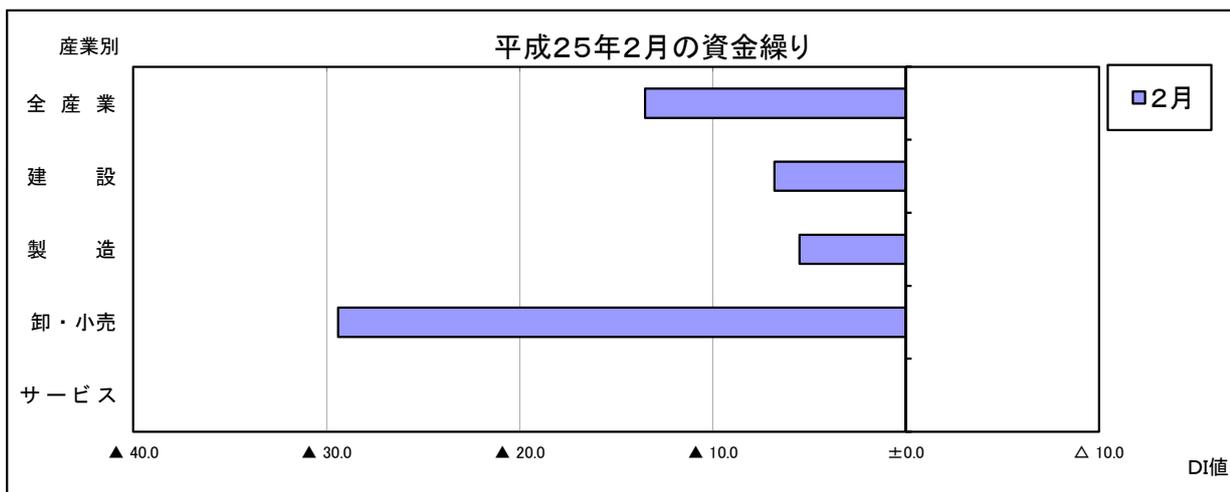
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5. 5(同▲11. 1)、サービス業±0. 0(同▲5. 5)、卸小売業▲29. 4(同▲30. 3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲6. 8(同3. 4)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4. 1(前月水準▲7. 1)となり、マイナス幅が3. 0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業6. 8(同±0. 0)、サービス業6. 6(同5. 5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11. 1(同▲16. 6)、卸小売業▲14. 7(同▲15. 1)である。

平成25年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲14.1	▲11.5	▲17.8	▲10.3	▲12.2	▲13.5	▲4.1(▲7.1)
建設	▲12.0	▲3.7	▲6.8	±0.0	△3.4	▲6.8	△6.8(±0.0)
製造	▲11.7	▲9.0	▲11.1	±0.0	▲11.1	▲5.5	▲11.1(▲16.6)
卸・小売	▲23.5	▲20.0	▲35.2	▲30.3	▲30.3	▲29.4	▲14.7(▲15.1)
サービス	±0.0	▲10.0	▲10.0	±0.0	▲5.5	±0.0	△6.6(△5.5)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.0	△ 12.5	▲ 30.2	▲ 4.1	▲ 29.1	▲ 31.2	△ 3.1	△ 9.3
建設	▲ 6.8	△ 24.1	▲ 27.5	▲ 6.8	▲ 31.0	▲ 44.8	△ 17.2	△ 24.1
製造	▲ 22.2	△ 11.1	▲ 22.2	±0.0	▲ 22.2	▲ 16.6	▲ 27.7	▲ 22.2
卸・小売	▲ 52.9	▲ 2.9	▲ 44.1	▲ 11.7	▲ 35.2	▲ 32.3	±0.0	△ 5.8
サービス	▲ 6.6	△ 26.6	▲ 13.3	△ 13.3	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 20.0	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.9	▲ 4.1	▲ 13.5	▲ 4.1
建設	▲ 17.2	△ 13.7	▲ 6.8	△ 6.8
製造	▲ 27.7	▲ 5.5	▲ 5.5	▲ 11.1
卸・小売	▲ 41.1	▲ 26.4	▲ 29.4	▲ 14.7
サービス	△ 13.3	△ 13.3	±0.0	△ 6.6

【平成25年2月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設	補正予算が現実に仕事に結びつく時期はいつなのかが関心事項です	補正予算	土木工事業
	年度末による仕事の量は増加しているが採算は良くない。これからの動きに期待している	仕事量増加 不採算 先行き期待	電気工事業
	特に大きな変化はない		一般土木建築工事業
	燃料費の高騰で県外市外の仕事だとその分の金額は貰っていないので厳しい	燃料費高騰 経費負担	造園工事業
	相変わらず業者不足、人手不足による工事の遅れが続いている。厳しい受注単価での施工のため、余分な出費は出せず四苦八苦している。受注工事の見通しはそこそこあるが材料値上がり、施工単価下落の状態での受注は不安である。また一部材料を輸入に頼っている現在、材料メーカーからの円安の影響で再度値上げするような話も出ている	人手不足 工事遅れ 原材料高騰 施工単価下落 先行き不安 円安の影響	その他の職別工事業
ガソリン高騰の為、商品運搬経費がかさみただでさえ売り上げが落ち込むこの時期に大打撃です。	燃料費高騰 運搬費増加	内装工事業	
製造	原油高と円安で原材料が上昇傾向にある	円安の影響 原材料高騰	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	機械メーカーは世間から数カ月遅れて波が来るので、よい側に市場が動き出す事を期待したい。海外からの輸入品は円安に直結して仕入価格に跳ね返っているが、販売価格は据え置きの為厳しい一面もある	先行き期待 円安の影響 価格据え置き	その他の機械・同部品製造業
	材料の値上がりが続いています。年度末までの仕事が終わり3ヵ月は仕事量が少なめな感じがある	原材料高騰 仕事量減少	建築用・建設用金属製品製造業
	原材料価格が円安に振れているため高騰の可能性が高い。3月に入ると動きがありそう。チャイナリスク回避の影響か定かではないが、一時的ではあると思うが、海外生産品の国内移行が出始めている	原材料高騰 円安の影響 チャイナリスク 国内生産	紙製容器製造業
卸小売	2月は端境期で元々数字は小さいが、冷え込みが激しく下旬に入っても春物も例年より出が悪い。冬物の需要はそこそこあるが売れ筋商品は少なく苦戦している	天候の影響 春物不振 冬物需要	婦人・子供服小売業
	仕入価格が少しずつ上昇傾向になってきています。売価は上げられずこの店も価格競争になっている	仕入価格上昇 売価横ばい 価格競争	その他の各種商品小売業
	2月度、厳しい寒さが続きセール商材の消化に繋がった。6日には大雪予報の影響を受け、売上高は大きく落ち込みをみせたものの、セールを17日まで開催したことや、バレンタイン商戦でマフラーや季節商品のギフトが動いたことから大きく盛り返した。セール終了後はプロパー商材の動きが活発化し、特に服飾雑貨で高単価商材が好調に動き全体を牽引した。	天候の影響 セール商材 大雪 売上減少 バレンタイン商戦 高単価商品好調	その他の各種商品小売業
	円安になり原材料価格が今後上がっていくような気がします。ますます二極化が進む中、価値の創造する能力が中小企業に問われていると感じます	円安の影響 原材料高騰	各種食料品小売業
	円安により原材料の価格がさらに上がるのではないかと心配です	円安の影響 原材料高騰	菓子・パン小売業
	新店舗と地元柏のお菓子が好調	売上好調	菓子・パン小売業
やや春になってきた感がありますが昨今は依然として低温からの葉物類の育成は進まず、入荷減から単価高の傾向、その他、野菜や果実でも入荷量にばらつきがあり、高値、安値の取引から総体的に減少しています。アベノミクスによるデフレ脱却している報道もありますが、株高、円安に関連していない事業所には反映する効果は消費が上向かないと厳しい。また今後TPP問題についても近いうちに動きがありそうで、注目して情報をもとに対応を図る必要があると思います。また、春に生産される野菜について行政の放射能検査を踏まえて安全安心した取引をしてみたいです	天候の影響 生育不調 入荷量のばらつき 取引減少 アベノミクス デフレ脱却 円安の影響 TPP 放射能の影響	食料・飲料卸売業	

【平成25年2月の業種別業界内トピックス】

	今シーズンは底知れぬ灯油の値上がりで販売方法に大きな変化が現れた。販売業種の多くは電気に切り替わり、量販店やGSに流れたが閉鎖したGSの一部が取引を開始してくれたりなんとか昨年並みの実績は維持できている	灯油値上がり 電気への転換 取引再開 取引昨年並み	燃料小売業
	昨年が悪すぎた。多少好転しているがまだまだであります	業況好転	酒場・ビヤホール
	宿泊は新規参入によりマーケットシェアの奪い合い。WEBからの予約が多く稼働は維持できても売り上げが予算に届かず。宴会は周年行事や叙勲等の大型宴会が獲得でき大きく売り上げを伸ばし事業所の利益に貢献。ボイラーのA重油の値上がりが大きく、今後は電気ガスの値上げも予想され、利益を圧迫することが懸念される	新規参入 WEB予約 売上不振 宴会好調 光熱費増加 利益圧迫	ホテル
サービス	2～3月の個人旅行は国内が伊豆箱根関西北海道沖縄が人気。海外はハワイヨーロッパグアムサイパンが根強い。国内海外とも4月くらいまでは昨年並みの受注。法人需要も動いている。心配なのは中小企業円滑化法終了の影響	受注横ばい 円滑化法終了	旅行業
	2月と言う時期的なことでも不動産は活発に動いています。4月以降にも期待したいです	不動産動向活発化 先行き期待	不動産賃貸業
	住居は賃貸需要期に入っていますが、通念より若干弱含み感があり。ホットスポットマイナスイメージを払しょくする企画、事業に期待。懸念材料は光熱費の高騰	賃貸需要期 ホットスポット 光熱費高騰	不動産賃貸・管理業
	年度末追い込みが進められています。ただ安部総理のおかげで経済活発化を期待し案件の話は飛びまわっています。それに反応して仕入、人件費が上がっている状況。元請けは利益がとれず涙です	年度末 経済活発化 先行き期待 仕入単価上昇 不採算	ソフトウェア業

◎円安の影響

- ・ 受注工事の見通しはそこそこあるが材料値上がり、施工単価下落の状態での受注は不安である。また一部材料を輸入に頼っている現在、材料メーカーからの円安の影響で再度値上げするような話も出ている その他の職別工事業
- ・ 原材料価格が円安に振れているため高騰の可能性が高い。3月に入ると動きがありそう。チャイナリスク回避の影響か定かではないが、一時的ではあると思うが、海外生産品の国内移行が出始めている 紙製容器製造業
- ・ 円安になり原材料価格が今後上がっていくような気がします。ますます二極化が進む中、価値の創造する能力が中小企業に問われていると感じます 各種食料品小売業
- ・ アベノミクスによるデフレ脱却している報道もありますが、株高、円安に関連していない事業所には反映する効果は消費が上向かないと厳しい。 食料・飲料卸売業

◎原材料・燃料高騰

- ・ ガソリン高騰の為、商品運搬経費がかさみただでさえ売上げが落ち込むこの時期に大打撃です。 内装工事業
- ・ 材料の値上がりが続いています。年度末までの仕事が終わり3ヵ月は仕事量が少なめな感じがある 建築用・建設用金属製品製造業
- ・ 今シーズンは底知れぬ灯油の値上がりで販売方法に大きな変化が現れた。販売業種の多くは電気に切り替わり、量販店やGSに流れたが閉鎖したGSの一部が取引を開始してくれたりなんとか昨年並みの実績は維持できている 燃料小売業
- ・ ボイラーのA重油の値上がりが大きく、今後は電気ガスの値上げも予想され、利益を圧迫することが懸念される ホテル

◎先行き期待

- ・ 年度末による仕事の量は増加しているが採算は良くない。これからの動きに期待している 電気工事業
- ・ 機械メーカーは世間から数ヵ月遅れて波が来るので、よい側に市場が動き出す事を期待したい その他の機械・同部品製造業
- ・ 2月と言う時期的なことでも不動産は活発に動いています。4月以降にも期待したいです 不動産賃貸業

平成25年2月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.9に対し、「CCI-LOBO」が▲26.4で柏の方がマイナス幅が3.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、製造業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.0に対し、「CCI-LOBO」が▲23.3で、柏の方がマイナス幅が2.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・製造業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、建設業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.2に対し、「CCI-LOBO」が▲28.9で、柏のほうがマイナス幅が1.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業でいずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、建設業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.1に対し、「CCI-LOBO」が▲27.1で、柏の方がマイナス幅が2.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、製造業、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が3.1に対し、「CCI-LOBO」が▲0.9で、柏の方が4.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、建設業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.5に対し、「CCI-LOBO」が▲14.7で、柏の方がマイナス幅が1.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、製造業、建設業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。

平成25年2月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.9	 17.2	 27.7	 41.1	 13.3
CCI LOBO	 26.4	 9.9	 31.0	 37.8	 21.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.0	 6.8	 22.2	 52.9	 6.6
CCI LOBO	 23.3	 3.3	 32.9	 33.9	 21.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.2	 27.5	 22.2	 44.1	 13.3
CCI LOBO	 28.9	 23.3	 34.7	 32.3	 25.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 29.1	 31.0	 22.2	 35.2	 20.0
CCI LOBO	 27.1	 36.1	 27.4	 18.9	 27.6

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 3.1	 17.2	 27.7	 ±0.0	 20.0
CCI LOBO	 0.9	 7.0	 10.3	 4.8	 3.0

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 13.5	 6.8	 5.5	 29.4	 ±0.0
CCI LOBO	 14.7	 9.0	 14.2	 18.2	 17.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：平成25年2月14日～20日

調査対象：全国の417商工会議所が3096業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは改善続く。先行きも景気回復への期待感が大きい

2月の全産業合計の業況DIは、26.4と、前月から+3.2ポイントの改善。政府の金融・財政政策や円安・株高に伴う景気回復への期待感が一層高まっているほか、企業の生産活動や個人消費にも明るさが出始めている。他方、急速な円安進行に伴う燃料(原油、ガス)・原材料の価格上昇により、収益が圧迫されている企業は広範に及んでいる。足元では、景気回復の実感に乏しく、やや期待先行の状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが13.0(今月比+1.3、4ポイント)と大幅に改善する見込み。燃料や原材料価格、電力料金の上昇などを懸念する声はあるものの、円安・株高による企業の業績改善や個人消費の持ち直し、政府による経済対策への期待感は一層大きくなっている。

産業別にみると、業況DIは、全業種で改善した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「消費税増税を控え、分譲住宅などの受注が増えている」(積石工事業)

「公共工事の増加を期待しているが、受注単価が低く採算が取れない。また、技能工不足や労務費上昇により入札不調となる案件も多い」(建築工事業)、「円安により、自動車関連企業業の業況改善に伴う設備投資の回復を期待している」(管工事業)

【製造業】「輸入水産物や石油の価格が上昇しており、採算悪化を懸念」(水産食料品製造業)、「円安の進行により、取引先が調達を海外から国内へ切り替えたため、受注増加を見込む」(段ボール製造業)、「受注が増加し業況は好転しているものの、電力料金の上昇など不安要素も多い」(自動車部品製造業)

【卸売業】「例年に比べ寒い日が続いたため、冬物衣料を中心に売上が増加」(服飾品卸売業)、「今のところ業況は好転しているものの、石油製品の価格上昇分を転嫁できるかによって収支に大きな影響が及ぶ見込み」(塗料卸売業)、「定年年齢の引き上げにより、社内の若返りができない。若手が不足することで受注に支障が出ないか心配」(食料品卸売業)

【小売業】「衣料品などの売上に大きな変化はないが、高級ブランド品に動きが出ている」(百貨店)、「経済対策への期待感はあるものの、売上は伸びていないため、個人消費が上向いている実感がない」(食品スーパー)、「寒い日が続いたことから、春物商品の売れ行きが鈍い」(商店街)

【サービス業】「軽油価格が高騰し、収益を圧迫。製造業や建設業の業績が回復しなければ、業況の改善は望めない」(運送業)、「前年と比べ、スキー客が増加しており、売上は好転している」(飲食店)、「原材料価格の上昇による収益圧迫の不安はあるが、円安により外国人観光客が増加する見込み」(旅館業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲26.6	▲16.6	▲27.8	▲19.3	▲40.3	▲22.5
10月	▲32.6	▲21.5	▲33.8	▲29.1	▲45.9	▲27.6
11月	▲31.1	▲17.9	▲37.6	▲26.1	▲39.9	▲27.9
12月	▲34.1	▲22.6	▲35.9	▲38.9	▲41.9	▲30.9
1月	▲29.6	▲15.7	▲33.3	▲30.0	▲39.8	▲24.9
2月	▲26.4	▲9.9	▲31.0	▲26.7	▲37.8	▲21.8
見通し	▲13.0	▲1.6	▲15.4	▲8.7	▲26.3	▲7.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI